

(様式1)

平成27年度 学校経営計画書及び最終評価報告書

金沢市立工業高等学校
学 校 長 小 酒 正 明

1 教育理念

金沢市立工業高等学校は、金沢市及び地域産業の発展に貢献するために、質実剛健にして勤勉進取の気概を備えた有為なる人材を育成する。

2 教育目標

- (1) 高い教養とすぐれた技能を
- (2) 責任ある言動と協調の精神を
- (3) 勤労の喜びと健全な心身を

3 教育方針

- (1) 「ものづくり」の感性と工業の基礎・基本を身につけた創造性豊かな人材を育成する。
- (2) 部活動、生徒会活動、学校行事への積極的な参加を通じて、豊かな人間性や自主・自立の精神、ルール・マナーを守る人材を育成する。
- (3) 実習や課題研究を通して、働くことの意義や喜びを実感するとともに、社会の動きに関心を持つ人材を育成する。

4 今年度の重点目標

- (1) 教育内容や指導方法を工夫し、基礎基本の定着を図るとともに、保護者と連携し基本的な生活習慣の確立を図る。
- (2) 生徒の規範意識の向上を図るとともに、安全や環境に配慮できる心を養う。
- (3) 学校行事、生徒会活動、部活動に積極的に参加し、生徒、教職員の愛校心を高める。
- (4) 資格取得や検定、各種コンテスト等に積極的に取り組み、専門分野の技能向上に努め、進路意識を高める。

(様式2)

金沢市立上美高等学校

重点目標	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	集計結果	分析(成果と課題)および改善策など
1 教育内容や指導方法を工夫し、基礎基本の定着を図るとともに、保護者と連携し基本的な生活習慣の確立を図る。	① 家庭学習の習慣化と基礎学力の定着を図ることを目的に、課題の活用、家庭学習の時間調査を継続的に実施し、保護者との連携を密にして指導を行う。	【成果指標】 家庭学習時間を毎日1時間以上確保できる生徒の割合を50%以上にする。	家庭学習を毎日1時間以上取り組むことができた。 A. 1時間以上取り組んだ B. 十分とはいえないが取り組むことができた C. 少し取り組むことができた D. 全く取り組めなかった	C・Dの割合が50%以上の場合は方法を再検討する。	A 2.2% B 28.5% C 51.3% D 18.0%	昨年度と比べ、Bの割合が少し上がったが、まだまだ改善が見られない。来年度は外部模試を通して学習目標を与えることで、家庭学習の時間増加や基礎学力の定着を図っていきたい。
	② 朝自習、放課後・夏季休業中・定期考査前の補習等の充実を図り、学習習慣の定着を目指す。	【満足度指標】 家庭学習を含め、朝自習や授業以外の補習に積極的に取り組むことができた。	朝自習、補習等の学習指導で生徒が取り組むことができた。 A. 十分取り組むことができた B. 十分とはいえないが取り組むことができた C. 少し取り組むことができた D. 全く取り組めなかった	C・Dの割合が50%以上の場合は方法を再検討する。	A 23.6% B 44.6% C 22.6% D 9.1%	教科担任及びホーム担任の協力のもと、生徒の取り組みが昨年度と比べ全体的に比率が上がってきた。今後とも継続していきたい。
	③ 習熟度別授業や少人数授業を展開し、学力の伸長を図る。	【満足度指標】 自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考えることで、問題を解決する力を実感できる。	学力が向上したと思う生徒の割合が全体の A. 60%以上であった B. 50%～59%であった C. 40%～49%であった D. 40%未満であった	C・Dの場合は方法を再検討する。	A…83%	生徒の理解度に対応した効果的な指導方法でいくぶん学力の伸長を図ることができた。今後も生徒の躰き箇所を探り、それに対する効果的な指導法を考えていきたい。
	④ 定期考査の欠点科目保持者をリストアップし、校内LANで教員間の情報の共有化を図る。赤点を複数科目保持する生徒については、担任が生徒面談および保護者に早期に連絡するよう教務部から働きかける。	【努力指標】 成績不良者の成績を生徒自ら及び保護者が自覚又は確認する機会を設け、教務部、学年主任、担任、生徒、保護者による面談を行う。	生徒、保護者に対して成績向上のための啓発活動ができた。 A 生徒に著しい変化が見られ、十分有効だった B 有効だった C 生徒、保護者ともに現状認識が足りない D 担任から生徒、保護者への意思疎通が十分なされなかった	C・Dの割合が70%以上の場合は指導方法を再検討する。	A 11.1% B 39.7% C 44.4% D 4.8%	ホーム担任及び教科担任による指導はもちろん、成績不良者に関する情報を職員会議の場で共有するなど、全体で生徒に対しての効果的な指導方法を考えていきたい。
	⑤ 補習内容を学校全体が把握できるシステムを構築する。	【努力指標】 工業科別に実施する補習について、学校全体が周知、把握できるシステムを構築する。	各科が補習内容や実施時期を学校全体に周知できた。 A 十分周知された B 一応周知された C あまり周知されなかった D 周知されなかった	C・Dの割合が40%以上の場合は指導方法を再検討する。	A 19.0% B 60.3% C 20.6% D 0%	プリントや掲示板を利用して全体に周知させるなどの対策が実施された。今後もさらに周知度を上げるよう効果的な対策を考えていきたい。
	⑥ 進路指導年間計画に基づき、各学年に応じた進路指導を展開する。特に学年会とは情報を共有し生徒の進路実現を目指す。	【成果指標】 就職決定率、進学決定率	就職決定率、進学決定率が A 両方とも98%以上 B 一方は98%以上、一方は95%以上98%未満 C 両方とも95%以上98%未満 D 上記以下	C, Dの場合は、取り組み方を再検討する。	2月18日時点で 就職決定率 100% 進学決定率 97% であるので 判定は B	今年度も求人数が多かったため、就職は順調であった。進学も、少子化のためもあり、決定状況は好調である。しかし、現状に甘んずることなく、求人数がいつ減少しても対応できるような方策を考えておかねばならない。
	⑦ 金沢市立海みらい図書館との連携・協働を図り、ものづくり教育の発信や図書委員会活動を活性化し、読書活動を推進する。	【成果指数】 図書館利用者、及び本の貸出冊数の増加と蔵書の充実を目指す。	図書館利用者の年間延べ数が前年度の利用者数を上回ることを目指す。 A 上回った B ほぼ同じであった C 少し下回った D かなり下回った	Dの場合は、指導や取り組みの見直しを行う。 B以上を目指す。	A 貸出冊数2896冊 生徒一人当たり4.0冊 2月末現在	図書館利用状況について内訳を見ると、来館者数、貸出冊数ともに2年生の利用者が大幅に増えた。1年は若干下回ったが、3年生も昨年を上回った。朝読書を1回増やしたことも成果につながったと考えられる。今回利用の少なかった1年生を中心に、啓蒙活動を行ったり、朝読書活動の大切さを訴えるなどして、読書好きの生徒を増やしたい。

(様式2)

金沢市立上美高等学校

重点目標	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	集計結果	分析(成果と課題)および改善策など
2 生徒の規範意識の向上を図るとともに、安全や環境に配慮できる心を養う。	① 傘さし運転ゼロ運動により、雨天時にはカッパを着用して自転車通学をさせ、傘さし運転をさせない。	【成果指標】 傘さし運転およびカッパ未着用者を減少させる。	傘さし運転ゼロ運動により違反者が全校で A 一人もいない B 5人未満である C 5人以上である D 15人以上である	C・Dの場合は指導方法を再検討する。	B (平均2.4人)	傘さし運動実施日数=17日) 違反者=累計42人 昨年度より微減したがより0に近づくよう指導していく。
	② 校内での携帯電話使用をさせない。	【成果指標】 携帯電話使用する生徒を減少させる。	校内での携帯電話使用違反者が、クラス毎の延べ人数(半期) A 5人未満 B 6人~10人未満 C 10人~15人未満 D 15人以上	C・Dの場合はクラス毎に指導する。	概ねA (平均1.3人) ※特定クラス=B	1M1=2、1M2=2、1E=3、 1R=4、1A=5、1C=6 2M1=2、2M2=1、2R=1 3R=1、3A=2 他クラスは0 例年 1年生の違反者が多いので入学当初から説明・説諭する必要がある。
	③ 遅刻をさせない指導の徹底を図る。	【成果指標】 一日の遅刻者数を減少させる。	一日平均遅刻者数(年間)が A 1人未満 B 1人~2人未満 C 2人~3人未満 D 3人以上	C・Dの場合は指導方法を再検討する。	B (平均1.2人)	授業日・3年169日、1・2年=180日 遅刻者 全校累計325人 昨年度より微増したので基本的な生活習慣の定着を今一度はかりたい。 また複数回の生徒が目立つので個別に説諭する必要がある。
	④ ゴミの持ち帰り・ゴミの少量化・分別の徹底を図る。	【努力指標】 クラスや各部活動が中心となり学校全体で、ゴミ分別や持ち帰りの意識を高める。	生徒がゴミの持ち帰りや分別を行う事ができたか。 A. ゴミの持ち帰りや分別を行うことができた B. だいたい行うことができた C. あまり行わなかった D. ほとんど行わなかった	C・Dの割合が20%以上の場合は、取り組み方を再検討する。	A 55.1% B 41.4% C 3.2% D 0.3%	ゴミの分別はしっかりと取り組まれているが、健康教育部の5S運動(整理・整頓・清潔・清掃・躰)は単なる美化ではなく、学習環境の調整という観点からも一層と取り組む必要がある。
	⑤ クラスに保健室・教育相談室の紹介をする。1年オリエンテーションで具体的に説明する。	【努力指標】 生徒が充実した学校生活を送ることができる。	保健室、教育相談室は体や心の健康について利用や相談が A できる B 必要である時にできる C あまりできない D できない	A・B合わせて50%未満の場合は、取り組み方を検討する。	A 20.4% B 54.7% C 16.0% D 8.9%	教職員・保護者・外部専門機関との連携がとれ、情報の共有化を行ってきた。保健室や教育相談が生徒の問題を教職員が把握する端緒になることが多かった。アンケートには出ないが、自らスクールカウンセラーとの面談を希望する生徒が多くなった。生徒の多様性に関する教職員の研修が今後必要。
	⑥ 実習による事故を起こさない。	【努力指標】 実習を始める前に安全教育を行う。	事故の発生件数が A なし B 1~3件 C 4~6件 D 7件以上	Aでなければ安全教育のあり方を再検討する。	B 2件	環境の改善、注意喚起の徹底

(様式2)

金沢市立上美高等学校

重点目標	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	集計結果	分析(成果と課題)および改善策など
3 学校行事、生徒会活動、部活動に積極的に参加し、生徒、教職員の愛校心を高める。	① 運動部、文化部の加入率を高めるとともに、各種大会等での上位入賞を目指す。	【努力指標】 部活動加入率の向上を図る。	全学年の部活動加入率が A 90%以上 B 80%～90%未満 C 70～80%未満 D 70%未満	C以下の場合は次年度の改善策を検討する。	A	高い部活動の参加率である。途中で部をやめた生徒への次の対応を考えていく必要がある。
		【努力指標】 1年生年度当初の部活動加入率の向上を図る。	1年生年度当初の部活動加入率が A 90%以上 B 80%～90%未満 C 70～80%未満 D 70%未満	C以下の場合は次年度の改善策を検討する。	A	女子の入る部が少ない。特に運動部が顕著であるといえる。
		【成果指標】 春と夏の全国大会出場の数増加を図る。	春または夏の全国大会出場ができた部活動数が A 7部以上 B 4部～6部 C 1部～3部 D なし	Dの場合は対策を考える必要がある。	A	各部活動の活躍が確認できる。
		【満足度指標】 生徒が達成感をもって活動している。	生徒の部活動に対する充実感が A 十分満足している B ほとんど満足している C あまり満足していない D 満足していない	A・Bの割合が70%未満の場合は、再検討する。	A+B・・・70% C+D・・・30%	ABを足しても70%である。部活動の意義を再確認し、目的ややりがいを考える必要性がある。
	② 応援練習及び高校相撲金沢大会を学校をあげての行事として設定し、一丸となって応援することで学校の帰属意識や愛校心を醸成させる。	【努力指標】 自ら進んで応援練習に取り組んだ。	応援委員の参加率が A 100%である B 90%である C 80%である D 80%未満である	A・B合わせて70%未満の場合は、取り組み方を検討する。	A	今後、応援委員の練習での指導のあり方や、教員の関わり方を考えていなければならない。
		【満足度指標】 相撲大会本番で同じ学校に学んでいるという生徒の意識が高まった。	応援に一生懸命とりくむことが A 十分にできた B できた C あまりできなかった D ほとんどできなかった	C・D合わせて30%以上の場合は取り組みを再検討する。	A+B・・・96% C+D・・・4%	生徒達の応援に対する頑張りや満足が確認できる。
	③ 金工祭において、生徒会・クラス・文化部・工業科がそれぞれ主体となって展示、イベントを実施する。	【満足度指標】 自ら進んで創立記念祭に参加し、取り組む意識が高まった。	金工祭に取り組む意識が A 十分が高まった B 少し高まった C あまり高まらなかった D ほとんど高まらなかった	C・D合わせて30%以上の場合は取り組みを再検討する。	A・・・73% B・・・15% C・・・4% D・・・8%	本年度は特に自主的に活動・参加している生徒の姿が確認できた。
④ ボランティア活動を推奨する。(さわやかグリーン活動等)	【努力指標】 夏の海岸清掃の参加者を増やす	ボランティア活動の案内が増え、実際に参加して A 十分意識が高まった B 少し意識が高まった C あまり高まらなかった D ほとんど高まらなかった	C・D合わせて50%以上の場合は、取り組み方を検討する。	A	海岸清掃においては、118人の生徒が集まり、よくがんばっていた。今後も継続、機会を増やしていきたい。	
⑤ 全校集会で校歌斉唱を実施する。	【努力指標】 自発的に大きな声で校歌斉唱する生徒を増やす。	自発的に校歌斉唱できる生徒が A 80%以上である B 70%～79%である C 60%～69%である D 60%未満である	70%未満の場合、改善を検討する。	81% A	集会で校歌を歌うことが定着してきたのかとも思われる。さらにしっかりと歌えることを目指したい。	
⑥ 高校生ものづくりコンテスト大会(旋盤、電気工事、電子回路組立、木材加工、測量等)及びそれに準じるコンテストにおいて上位入賞を目指す。	【成果指数】 各種コンテスト大会においての上位進出を目指す。	今年度のコンテスト大会において A 全国大会で上位の成績をあげた。 B 全国大会に出場できた C 北信越大会に出場できた D 北信越大会に出場できなかった	Dの場合は、指導や取り組みの見直しを行う。 B以上を目指す。	A	機械科： 全国ソーラーラジコンカーコンテスト 2位・4位 ロボットアメリカンフットボール全国大会 出場 全日本ロボット競技大会 出場 建築科： 日本工学院 けんちくコンテスト 金賞	

(様式2)

金沢市立工業高等専門学校

重点目標	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	集計結果	分析(成果と課題)および改善策など
4 資格取得や検定、各種コンテスト等に積極的に取り組み、専門分野の技能向上に努め、進路意識を高める。	① 資格取得に対する意欲を高め、合格率が全国平均を上回る事を目指す。	【成果指標】 意欲的に国家資格取得に取り組み、目標とした合格率の達成を目指す。	国家資格取得合格率が在校生の A 全国平均より10%以上 B 全国平均より10%未満 C 全国平均 D 全国平均未満	Dの場合は、取り組み方を再検討する。	A	M: 技能検定 普通旋盤作業2級 60.0%(47.4%) 技能検定 普通旋盤作業3級 100%(73.4%) 技能検定 フライス盤作業3級 100%(73.4%) 技能検定 マシニングセンタ作業3級 100%(73.4%) 技能検定 機械検査作業 94.4% 技能検定 シーケンス制御作業3級 94.7% E: 電気工事士 72.5%(38.8%) R: DD3種 40%(30%) 基本情報技術者 5%(26%) A: 建築2級施工管理技術 60%(48.5%) C: 測量士補 50%(28%) *カッコ内全国平均
	② ジュニアマイスターを推奨し、多くの資格取得に挑戦する意識付けの取り組みを推進する。	【成果指標】 資格取得によるジュニアマイスター受賞者の人数を増やす。	3年卒業時のジュニアマイスター受賞者の数が A 80人以上 B 60人以上80人未満 C 40人以上60人未満 D 40人未満	Dの場合は、取り組み方を再検討する。	B	M: 30名 E: 14名 R: 14名 A: 10名 C: 4名
	③ 英検・漢検・数検などの資格取得に対する意欲を高め、合格率も上げる。	【努力指標】 資格取得に向け生徒の意識を高め、資格受験者を多くし、さらに合格率を上げる。	資格受験者の年間延べ受験者数を増やし、さらに合格率を上回ることを目指す。 A かなり上回った B 少し上回った C ほぼ同じであった D かなり下回った	Dの場合は、指導や取り組みの見直しを行う。 B以上を目指す。	C	受験者は増加傾向であるが、合格者・合格率が上がったとは言えない。もっと力をつけさせて受験させるようにしたい。